

令和6年度 学校経営シラバス

北海道旭川西高等学校
令和6年 4月4日

めざす学校像	目標とする生徒像
1 授業改善や探究活動等の充実を図ると共に、ICTを活用した授業に組織的に取り組み、生徒の学力向上を図る 2 自らの生き方を考え、進路を選択できる力や態度を育む 3 生徒の主体的な活動の充実を図り、望ましい人間関係を形成できる生徒を育てる 4 安全で安心できる活動を通して、健康や安全への意識の向上を図る	学校教育目標 高い志を掲げ、「研学・高邁・潑刺」の校訓のもと、自律して生きる力を高め、これからの社会に自ら寄与できる人間 スクール・ミッション ○次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科 学技術分野の発展に貢献できる生徒の育成 ○生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成 ○確かな学力と広い視野を持ち、主体的に学び、自律して社会に寄与する生徒の育成

職	対 象	中期目標	今年度の目標	目標達成のための評価の観点
教 育 活 動	学習指導	◎主体的に学ぶ意欲と学力の向上 ポイント 観点別評価の合理化とICTを活用した教科横断的カリキュラムの編成	◎主体的な学習習慣の定着に向けたさらなる授業改善。 ◎学力の三要素習得に向けた合理化。 ◎学習評価の合理化。 ◎探究のさらなる充実。 ◎ICTのより効果的な活用に向けた実践及び研修の推進。	□生徒の主体性を育む授業の実践 □授業目標の明確化と振り返りの充実 □観点別学習評価の合理的、効果的活用 □教科横断的カリキュラムの推進 □ICTの効果的な活用 ポイント 自己指導能力の育成と安心安全の確保
	生徒指導	◎自律性や社会性を培い、責任を持って行動できる個性ある生徒の育成	◎社会性の向上に向けた取組の深化。 ◎いじめの防止と望ましい人間関係を形成する力の涵養。 ◎多様性尊重意識の涵養。 ◎気候や社会情勢等への対応	□挨拶の励行 □情報リテラシー教育の充実 □「学校いじめ防止基本方針」の生徒・保護者への周知と、いじめに対する組織的な対応の徹底 □生徒会活動との連携及び生徒会行事の合理化
	キャリア教育	◎自己理解を深め、主体的に考え、自らの力で進路を切り拓く能力の育成	◎キャリア発達を促す指導の充実。 ◎学習状況の把握と課題の明確化。 ◎受験指導の合理化。 ◎保護者・地域・同窓会等との連携。	□キャリア学習を教育課程に位置づける取組 □学習状況調査と模擬試験等の分析の実施 □受験講習の合理化と多様な入試に向けた指導 □地域・同窓会等の人材活用 □効果的な情報発信 ポイント キャリア形成・受験指導
	健康・安全 教育	◎心身の健康増進及び安全、環境美化意識の高揚 ポイント 本校の実践を踏襲	◎教育相談体制の維持及び発達支援指導の充実。 ◎健康・安全意識を高める指導を充実させる。 ◎防災や危機、生活環境の整備に対する意識を高める。	□教育支援委員会を通じた相談体制の充実 □情報の共有やスクールカウンセラー及びSSWとの連携を通じた、個々の生徒への適切な対応 □支援が必要な生徒の支援計画の作成と情報共有 □避難訓練や講話、環境美化の取組充実
	理数教育	◎SSH事業を活用した課題探究能力の育成 ポイント 組織改革・評価・コンソーシアム運営・教科横断・データサイエンス	◎SSH 4期目申請に向けた検討。 ◎SSH コンソーシアムの運営。 ◎データサイエンスを基盤にした分析手法の構築 ◎教科横断による探究深化 ◎SSH 評価法の検討 ◎効果的な情報発信	□校内体制の再構築 □コンソーシアムの理念共有および合理的な運営 □数理的分析方法の深化（普通科・理数科共通） □単元配列表の作成 □外部機関（道研及び大学）との連携 □多様な情報発信手段の構築
グローバル教育	◎グローバル社会で活躍できる国際性の育成 ポイント 視野の拡大とコミ力の育成	◎国際理解教育の充実。	□英語活用機会の充実 □地域の各種国際交流事業等との連携 □遠隔交流の実現（ICTの活用）	

学 校 運 営	信頼される学校づくり	◎教育の成果を保護者・地域と共有できる学校づくり ◎組織的な学校改善の定着	◎情報発信の改善と充実。 ◎学校評価を活用した学校改善の定着。 ◎スクールミッション・ポリシーを軸としたカリキュラムの実現。 ポイント 情報発信とカリキュラムマネジメント	□HP運用の組織化 □中学生とその保護者に対する情報提供の充実 □報道機関等を活用した学校の教育活動の周知 □学校課題の明確化と改善方策の具体化 □スクールミッション・ポリシーの実現に向けたPDCAサイクルの確立
	組織の活性化	◎業務量の平準化 ◎業務の可視化 ポイント 心理的安全性の確保と対話	◎分掌主導体制の推進。 ◎職員会議の効率化と弾力的実施及び心理的安全性の確保。 ◎ICTを活用した校務の効率化。	□分掌による事前調整・企画と学年への説明 □運営会議を活用した校務運営の効率化 □研修会の励行とボトムアップの推進 □ROADの点検と活用 □全職員によるICTの活用
	教職員の資質向上	◎21世紀型能力の育成に向けた教職員の資質向上 ポイント やる気を引き出す組織マネジメント（管理職）	◎校内外の研修会への積極的参加と実践例の活用 ◎ICT活用能力の向上 ◎服務規律の厳守と校務管理の徹底	□人事評価の自己評価を活用した自省 □ロイロノートの活用 □人事面談を活用した目標管理の充実 □ケーススタディの励行とヒヤリハットの共有